

三條南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



会長挨拶

三條南ロータリークラブ 会長
丸山 征夫

自分に奉仕、 周りに奉仕。

良いことをしたら褒めてもらいたいのは人間を含めて動物の本性でしょうか。

昔、猫を飼っていた時のこと、外で捕まえたネズミを啜って家の部屋の真中に置いていた。これは自分が捕ったものだ、エライでしょうと言わんばかりの顔をしていた。犬もfrisbeeを投げると喜んで走って取りに行く。くわえて持ってきて主人に渡す。そしてまた投げてもらおうのを待っている。きっと良いことをしていると思っているのでしょうか。

私達も似たようなものです。赤い羽根は寄付をすると一本胸に付けてくれる。最近半強制的みたいに町内の班長さんが持ってくる。班費から寄付を出しているらしい。既に寄付しているのにスーパーの前に行くと「赤い羽根の共同募金に協力をお願いしま〜す」と避けて通れないように道を塞ぐ。もう既に町内で寄付しているからと思っても、その「お願いします」から逃れられない。寄付すると赤い羽根が一本。日本全国でどの位の数の二ワトリが羽根をむしられたのだろう。赤い羽根を付けた人は寄付したんだよと他人に見せるためというか証拠に胸に羽根を付ける訳です。誰もあの羽根が格好良いアクセサリと思っている訳がありません。寄付をした人の名前の表示は他人にそのことを知ってもらうためにやるのです。駅前大きな時計や公園のベンチ、あちらこちらにロータリークラブやライオンズクラブの名前が見られます。

神社には境内の石の塀には氏子とか寄付した人の名前が彫られています。本殿の前の狛犬にも台座に贈った人の名前が。名前がなければ誰が寄付したのかわからないということでしょうね。これに反し、道で拾った財布を交番に届けて名前も告げずに立ち去ったという話もよく聞きます。きっと中身が少なかつたから届けたんだろうなんて考えてはいけません。その届けた方は心のきれいな人です。

昔、亡くなった親父が町で困っていた千葉県の人を一泊だったと思うが家に

出席率 会員51名中27名

先々週の出席率 87.23% (11/7)

ゲスト (株)スノーピーク 代表取締役専務 渡邊美栄子様

管理本部 総務課 大島秀俊様

- 先週のメイクアップ
- 11/15 三條北RCへ
荒澤威彦君 長谷美津明君 熊倉高志君 太田義人君 坂本洋司君
 - 11/16 親睦・プログラム委員会へ
丸山征夫君 木村 譲君 平松修之君 銅冶康之君 広岡豊樹君
熊倉高志君 石山昌宏君 栗山佳大君 桑原朋子さん 永井篤利君
中田雅也君
 - 11/19 次年度ガバナー補佐会議(新潟)へ 鈴木 武君

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるか どうか



国際ロータリー会長 ジョンF. ジャーム [アメリカ]
第2560地区ガバナー 田中政春 [長岡西]
第4分区ガバナー補佐 森山一理 [加茂]
会長 丸山征夫
幹事 谷晴夫
S A A 木村 譲

事務局 〒955-8666 三條市旭町2-5-10
三條信用金庫 本店内
TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095
E-mail info@sanjo-minami.jp
URL http://www.sanjo-minami.jp

泊めたことがありました。私は子供でしたから事情は全然分かりません。でも何年後にその方から千葉の落花生が送られてきたのを覚えています。何年も続けて送ってきてくれました。最後はその方の娘さんが送ってきてくれたように記憶しています。見返りを求めない親切が本当の親切なんだろうな、そういった行為に心から賞賛したいと思います。

歳暮、中元、年始は別として、名前が付いた贈り物は下手をすると売名行為と蔑まされる恐れがあります。選挙の事前運動みたいです。選挙前になるとあちこちの大小の会合に突然顔を出す候補者も嫌いです。いっそ落としてやろうかと思うことさえありますが、そういう人はなかなか落選しないものです。

来月 12 日に入れ歯の洗浄器を市内の老人介護施設に寄付する予定になっております。地区の補助金は申請しましたが却下され、我がクラブの自腹となっております。この時に三条新聞とか新潟日報他の新聞社に取材をしてもらい記事にして RC の行動を広く知ってもらうのは如何ですか？

当南クラブは（三条クラブも）毎年 3 万円も赤い羽根に寄付しても記事にならないようです。また反対に同じような金額でもデカデカと新聞に載せる某団体もあるようです。

そこで皆さんに新聞取材依頼したほうが良いか、しないほうが良いかお聞きしたいと思います。

※ 結果は、取材依頼した方が良い となりました。

それではそのようにします。話はこれで終わります。

ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

～11月21日 14,000円
今年度累計 261,000円～

丸山（征）君 今日は、Snow Peakさんへ職場例会です。天気良くて気持ち良いです。山井さん、皆さん どうぞよろしくお願ひします。

谷 君 スノーピーク様、職場例会ありがとうございます。とても天気の良い日でした。

西 潟 君 本日は、スノーピーク様
ありがとうございます。

鈴木（囿）君 5年前の会長時にGSEのメンバーとここスノーピーク様を訪問 大変お世話になり、ありがとうございました。

**坂井君、佐藤（秀）君、広岡君、
星野君、渡邊（光）君**
スノーピーク様、お世話になります。
BOXに協力いたします。

田 代 君 職業奉仕委員会の皆様、本日の設営おつかれ様です。スノーピーク様、お世話になります。ありがとうございます。

西 巻 君 スノーピーク様の 社内見学を楽しみにしております。

馬 場 君 山井社長様、本日は例会場をご提供下さいましてありがとうございました。

渡 辺（和）君 山井社長、いつもお世話になりありがとうございます。

今日は 素晴らしい社屋を見学させていただきます。よろしくお願ひします。

佐々木君 今日はスノーピーク様での職場例会楽しみにしています。
BOXご協力ありがとうございました。

卓話

「職場例会」

「スノーピークについて」



株式会社スノーピーク
代表取締役専務
渡邊 美栄子 様

Prologue

新潟県燕三条。世界にその名を知られるものづくりのまちで、スノーピークは生まれた。燕三条駅から自然豊かな山間へ車を走らせてたどりつく、5万坪のキャンプ場を併設した本社では、社員たちが日々自然と向き合いながら、何にも似ていない独創的なプロダクトを生み出し続けている。今や国内のみならず海外にもファンを増やしているスノーピークの歩みは、半世紀以上前の 1958 年、創業者の山井幸雄が金物問屋を立ち上げた日からはじまる。谷川岳をこよなく愛した登山家でもあった幸雄は、当時の道具に満足できず「本当に欲しいものを自分でつくる」という志のもと、オリジナルの登山用品を開発。燕三条の優れた職人技術を活かし、仮説と検証を徹底的に繰り返して生まれた、使いやすくクオリティの高い登山用品は、次第に山好きの注目を集めていった。1963 年にスノーピークの名称を商標登録し、1976 年には自社工場を設立。高い山の頂を目指すように、幸雄は一歩ずつブランドの基盤を固めてゆく。

そのスノーピークがオートキャンプという新たな領域を切り拓くことになったのは、1986年に幸雄の息子である現社長、山井太の入社がきっかけだった。太はそれまでバックパッカーやヒッチハイカーのような、若者たちのものというイメージを持たれていたキャンプに注目。アウトドアをライフスタイルととらえ直し、家族の絆を深めるための豊かな時間としてのキャンプを提唱する。父、幸雄から受け継いだ「本当に欲しいものを自分でつくる」という信念で、太は燕三条の職人技に裏打ちされたラグジュアリーでハイエンドなキャンプギアづくりを開始。過剰なまでに頑丈なペグ「ソリッドステーキ」や、地表にダメージを与えない焚火のための道具という新ジャンルを築いた「焚火台」など、今までなかった製品を次々生み出し、日本中に巻き起こったオートキャンプブームを牽引した。スノーピークのキャンプは、人と人、人と自然をつなぐキャンプ。頂を目指しながらも、つながりを広げていこうとする新たな進化がそこにあった。



スノーピークは自らの使命を、人間回帰という言葉で表現する。他にないものづくりから生まれた製品を使う人々が、自然に深く包まれることで人間らしさを取り戻すこと。そして、その喜びを知る人を、一人でも多く増やすこと。「人生に、野遊びを。」のスローガンのもと、活動の領域は今やキャンプ場にとどまらず、都市や住宅、オフィスなどにも広がりつつある。かつてスノーピークの道具を使いオートキャンプを楽しんだ幸せな記憶とともに育った子どもたちが、今は親になって、自分の子どもたちと野遊びをしている。自然が気づかせてくれる大きくゆるやかな時間を、日本中、世界中の人々と分かち合うために、スノーピークはこれからも、どこまでも、進化し続けていく。

トップメッセージ

美しく恵まれた自然環境と世界に冠たる産業集積を有する新潟燕三条。

その個性的なまちで私達スノーピークは1958年7月に創業されました。創業者である山井幸雄はアウトドアメーカーの創業者に相応しい純粋で熱心なクライマーでした。

社名であるスノーピーク（Snow Peak）という言葉は、彼の愛した谷川岳が雪を頂いた山頂、白い頂を意味しています。

私達スノーピークは、「自らもユーザーである」という創業以来の原点に基づき、自然指向のライフスタイルを提案し実現することをミッションとして掲げています。オートキャンプをはじめとするアウトドア製品の開発・製造・販売の事業展開を通じて、自然の中で生きる力、家族や友人とのコミュニケーション等、現代社会で失われつつある「自然と人のつながり」や「人と人とのつながり」を提案しています。

私達が生きる現代社会は文明の進化が著しい反面、ストレスの増大等、人々の人間性の低下が危惧され、社会構造が複雑になればなるほど、人間性を回復したいという欲求が高まるものと考えております。

私達スノーピークは社会的な存在感を一層増し、「人生に野遊びを。」のコーポレートメッセージのもと、自然と共に生きることにより人間性を回復するライフスタイルの提案という使命をより多面的に実現していきたいと考えています。

そしてスノーピークは、皆様が参画できる開かれたブランドであることを目指しています。

皆様にとって特別なブランドであり続けるために、継続的な企業価値の向上を目指し、事業を推進していきます。

代表取締役社長 山井 太

会社概要

平成28年7月1日現在

会社名	株式会社スノーピーク
代表者名	代表取締役社長 山井 太
本社	〒955-0147 新潟県三条市中野原 456 番地
創業	1958年7月(設立：1964年1月)
事業内容	アウトドアライフスタイル用品の開発・製造・販売事業
資本金	9,952万円
従業員数	連結：198名〔64名〕（2015年12月31日現在） ※〔 〕内に臨時従業員数を外数で記載しております。
連結子会社	Snow Peak Korea, Inc.、株式会社スノーピークウェル、 株式会社スノーピークビジネスソリューションズ

国内拠点

- 本社 | HEADQUARTERS 〒955-0147 新潟県三条市中野原 456
- 物流センター 〒955-0001 新潟県三条市三貫地新田 958
- 東京営業所 〒158-0095 東京都世田谷区瀬田 2丁目 32-14 玉川高島屋ショッピングセンターガーデンアイランド地下1階

- ・大阪営業所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 7 丁目 1-26 オリエンタル新大阪ビル 803
- ・Harajuku Office 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2 丁目 33-12 ビラ・ピアンカ 303 号室

海外拠点

- ・ Snow Peak Inc. A Corporation of Japan (アメリカオフィス) 410 NW 14th Ave., Portland Oregon, 97209, USA
- ・ Snow Peak Taiwan Branch (台湾オフィス)
Rm. 213, 11F.-1, No.51, Hengyang Rd., Zhongzheng Dist., Taipei City 100, Taiwan (R.O.C.)

会社沿革

- ・ 1958年 7月 初代社長 山井幸雄が金物問屋として、山井幸雄商店を創業。
- ・ 1959年 登山を趣味とする山井は当時の登山用品に不満を持ち、オリジナル登山用品を開発。全国に販売を開始。
- ・ 1963年 「スノーピーク」を商標登録
- ・ 1964年 1月 有限会社 山井商店を設立。法人組織化。釣具ブランド「カーブ」を商標登録し、フィッシング業界に参入。本格的アウトドアレジャーのメーカーとして事業領域を拡大。
- ・ 1971年 株式会社ヤマコウへ組織変更。
- ・ 1986年 現社長である山井太が入社。アウトドアをライフスタイルととらえ、スノーピークをオートキャンプブランドとしてリニューアル開始。
- ・ 1987年 スノーピークの代表的な商品であるマルチスタンドをリリース。同時にシステムデザインをコンセプトとしたオートキャンプ用品の開発を本格化。
- ・ 1988年 オートキャンプ用品の本格的リリース。オートキャンプのパイオニアメーカーとして日本のアウトドアシーンを革新。
- ・ 1992年 創業者 山井幸雄逝去。山井トキが社長に就任。
- ・ 1995年 5月 西日本の営業拠点として大阪営業所を設立。
- ・ 1996年 12月 山井太が代表取締役社長に就任。同時に株式会社スノーピークに社名変更。新規事業としてフライフィッシング事業に参入。
アメリカの拠点である子会社 Snow Peak U.S.A.,Inc.をオレゴン州に設立。
- ・ 1998年 キャンプイベント「Snow Peak Way」の開始。
- ・ 2001年 1月 ヨーロッパへ輸出開始し、韓国をはじめアジア市場へ本格参入。
- ・ 2001年 4月 東北営業所開設。
- ・ 2001年 10月 オセアニア地区へ輸出開始。
- ・ 2003年 5月 福岡・太宰府と東京・晴海にスノーピーク初の直営店『Snow Peak Store』を出店。
- ・ 2004年 秀岳荘白石店、L-Breath 御茶ノ水店、Wild-1 多摩ニュータウン店内に『Snow Peak Store』を出店。梅田、神戸に直営店『Snow Peak Store』を出店。
- ・ 2005年 L-Breath 新宿店内に『Snow Peak Store』を出店。Snow Peak Club 開設。
- ・ 2006年 パワーズ広島店、ポイント&ペグ熊本流通団地店内に『Snow Peak Store』を出店。
- ・ 2007年 Wild-1 仙台泉店、楽天市場、Wild-1 印西ビッグホップ店内に『Snow Peak Store』を出店。ヨーロッパでの拠点、Snow Peak Germany をドイツに設立。
- ・ 2008年 L-Breath 池袋西口店、L-Breath トレッサ横浜店、スポーツオーソリティ 港北センター南店、ヒマラヤアウトドア岐阜店、Wild-1 京都宝ヶ池店にそれぞれ「Snow Peak Store」を出店。韓国法人 Snow Peak, Korea を設立。
- ・ 2009年 九州営業所設立。直営：マリノアシティ福岡店、銀座店 WILD-1 小山店、WILD-1 入間店、WILD-1 ふじみの店、スポーツオーソリティつきみ野店、WILD-1 伊勢崎店、SWEN 三島店、スポーツオーソリティりんくう泉南店、スポーツオーソリティ西宮今津店を出店。
- ・ 2011年 キャンプ場を併設した店舗・工場・オフィスが一体となった「Headquarters」へと移転。
- ・ 2012年 岐阜ヒマラヤスポーツ本館店、好日山荘さいか屋藤沢店、Victoria 越谷レイクタウン店、スポーツオーソリティ三好店、スポーツオーソリティ倉敷店、スポーツオーソリティ岡崎店、スーパーズスポーツゼビオキャナルシティ博多店、スポーツオーソリティ松戸店、SWEN 浜松店、スポーツオーソリティ姫路リバーシティ店、スポーツオーソリティデュー阪急山田店、スポーツオーソリティイオンタウン四日市泊店、スポーツオーソリティ熊谷店、スーパーズスポーツゼビオ神戸ハーバーランド店、阪急うめだ本店を出店。
- ・ 2013年 スノーピーク丸の内、スノーピーク横浜みなとみらい、スポーツオーソリティ大垣南店、L-Breath 吉祥寺店、SWEN 清水店、スポーツオーソリティ高松店、渋谷西武モヴィータ館 Loft&店、スポーツオーソリティ幕張新都心店を出店。
Snow Peak Portland Store (米国)を出店。
Snow Peak HQ Lounge (韓国)、Snow Peak Busan Store (韓国)、Snow Peak E-Cheon Store (韓国)を出店。
台湾支店を開設、PolarStarFong-Chia 店(台湾)、XlanderMing-Chuan 店(台湾)、RunFarOutdoorNeihu 店(台湾)、MORVChu-bei 店(台湾)、100mountainKaohsiung 店(台湾)を出店。
- ・ 2014年 東京証券取引所マザーズ市場に上場。スノーピーク武蔵小杉を出店。

- 2015年 東京証券取引所一部市場に指定。直営店併設のキャンプフィールド スノーピーク奥日田、スノーピーク海老名、スノーピーク表参道、スポーツオーソリティ新ひたちなか店内、スノーピーク昭島アウトドアヴィレッジ、ヨドバシカメラマルチメディアヨコハマ店、ヨドバシカメラマルチメディア梅田店、ヨドバシカメラマルチメディア博多店、ヨドバシカメラマルチメディアさいたま新都心駅前店、スポーツオーソリティ四條綴店、スポーツオーソリティ常滑店を出店。
Snow Peak SoHo（米国）を出店。
Snow Peak Apparel store Hyundai Dpt.Pangyo（韓国）を出店。

（株）スノーピーク ホームページより



ROTARY NEWS

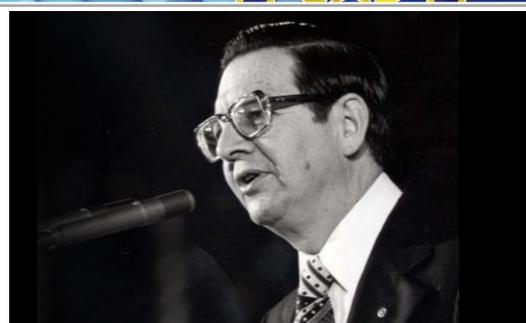


第7章 「3H:ロータリー財団の輝く新たな夜明け」から抜粋

2016-17年度は、ロータリー財団の創立100周年にあたります。世界中のロータリー会員は、1世紀にわたり、人びとの生活をより良くし、多くの人に影響を与えてきました。

今年度、ロータリー財団の第1世紀をつづった『世界でよいことをしよう：人びとの心に触れた100年』からの抜粋を少しずつご紹介していきます。

財団100周年と祝賀のアイデアについては、特設記念サイト (www.rotary.org/ja/foundation100) をご覧ください。



1978年に東京で開かれた国際大会で3-Hプログラムを紹介するクレム・レヌーフRI会長エレクト

第7章 3-H：ロータリー財団の輝く新たな夜明け

設立60年にして、ロータリー財団は重大な転機を迎え、後の主要プログラムとなるポリオプラスの基盤を築くこととなる。その経緯を最もよく語ってくれたのは、ロータリアン、クレム・レヌーフである。レヌーフは飛行機の操縦士として第二次世界大戦で兵役を務めた後、オーストラリア、クイーンズランド州の小都市ナンボーに居を構え、会計士となった。1949年にナンボー・ロータリークラブの創立会員となり、後にクラブ会長に就任。1965年には地区ガバナーとなり、RI理事を務めた後、1978-79年度RI会長に選出された。

ガバナー就任以前から、レヌーフはさまざまな経験を重ねていた。1966年には、レクブラシッド（米国ニューヨーク州）での研修に向かう途中、インドのある医療施設に立ち寄った。ベロールにあるその施設は、オーストラリア、インド、米国のロータリアンが支援していた。これはロータリーがちょうど、マッチング・グラントと研究グループ交換（GSE）の活動を始めた頃のことである。

